

心ふれあう

ちょっと

# おやかまのちょっといい話

シリーズ 13

※チラシは偶数月の第一月曜日に皆様にお届けしています。過去のシリーズはアーバンホールのホームページでもご覧いただけます。

## 一期一会の教え

私はイベント会社に勤めています。岡山県内のある市役所主催のイベントを担当した時の事。ある出合いが私の心を揺り動かししました。

そのイベントは、何十年前前から秋に実施をされてきた、地元の人恒例行事。老若男女地域の方が参加するお祭りのようなものです。中学・高校生の吹奏楽部の演奏、地元女性部による伝統芸能の披露、各種団体による飲食の販売など、顔の見える地元の人が参加する催しです。

市の担当は総務部の40代男性で、今年初めて担当になった新木さん(仮名)。一緒に打ち合わせを重ね、準備は順調。ところが、大きな台風が発生し、まさにイベント当日は大雨かもしれない予報でした。あらゆる可能性を考え、対応策を検討し、後は運を天に任すのみということ

ろ。それでも前日の設営日は雨で、雨と風の中テントを張り物品を搬入するという状況でした。

その嵐の夜の事でした。新木さんが「僕はこのイベントを担当するのが夢だったんですよ」と話してくれました。

私は、内心驚きました。失礼ながら「僕が小学生のころ、何もすごいことがあるわけではないんだけど、毎年このイベントの前日になるともう、眠れないくらいワクワクしてたんですよ。」

新木さんの目は子供のように輝いていました。「楽しみでしよるがなくてねえ。大

を初めて知ったんですよ。それからもう、何とかして携わりたくても、市役所は部署異動が頻繁でしょう。なかなか総務部に異動にならなくて、でもついに今年担当できたんですよ。もう嬉しくてうれしくて。絶対に成功させたいんですよ。」

私はいイベントをするのが仕事で、年間何十件も、シーズンには掛け持ちでイベントを実施しています。こんな想いを持って担当している人がいる。私は本当にその全てに応えられているだろうか。ともすれば、忙しさに追われ、情熱をどこか忘れてはいないか。自分自身に問いかけ、成功させなければならぬと強く再度意識しました。

夜の間に台風は逸れて行き、当日は台風一過で空は晴れ渡り、秋の穏やかな日差しが戻りました。まさに新木さんの強い想いがそうさせたように感じました。当日朝、スタッフにも新木さんの想いを伝えました。心をひとつにし、盛況のうちにイベントを終えることができました。

新木さんからも無事終了を感謝してもらいましたが、それ以上に感謝したのは私の方でした。当日の子供たちの笑顔を見て、これから先一つでも多く笑顔溢れるイベントを実施していきたいと胸を熱くした秋晴れの一日となりました。



あなたのアーバンホール

# アーバンホール

葬儀・法要・ギフト

私たちには今、この時しか与えられていません。「満身の力」で今を生きる、またその心構えの大切さを夏目漱石は時代を超えて私たちに問いかけてくれています。

夏目 漱石

満身の力を込めて現在に働け。

皆様の『心ふれあう おやかまのちょっといい話』をお寄せください。ご応募いただいた優秀な作品はアーバンホールのホームページ上・チラシなどにてご紹介させていただきます。ご意見・ご感想もお待ちしております。またご応募いただいた方全員にささやかながら粗品を進呈させていただきます。

◆応募先/アーバンホール「ちょっといい話」係 〒710-0841 倉敷市堀南805-1 ◆記入事項/①住所②氏名③電話番号④年齢⑤エピソードご応募の方は1200文字程度(原稿用紙・ワープロいずれも可)にてお願い致します。尚、作品の返却はありません。